

消化器・肝臓センター

NEW—す

NO. 34

2018.4



ERCPを知っていますか？

① ERCPとは

皆さんはERCPという検査・治療を聞いたことがありますか？ ERCPを正確に言うと内視鏡的逆行性胆道

膵管造影（英語：Endoscopic retrograde cholangiopancreatography, ERCP）となります。難しそうな名前ですがどんなものかと言うと「胆嚢、胆管あるいは膵臓の病気を診断・治療するために、口から内視鏡を挿入し行う検査・治療」です。ERCPの適応となる疾患はたくさんあり、膵臓関連の病気であれば膵癌・膵のう胞性疾患・慢性膵炎等、また胆道関連の病気であれば胆管癌・胆のう癌・膵胆管合流異常症・総胆管結石といったものの診断や治療を行うことが可能です。

ERCPで使う十二指腸用スコープは後方斜視鏡と呼ばれ、一般的な検査で用いる直視鏡とは異なり視野方向が内視鏡の前方ではなく視野方向が斜め後ろ方向（後方斜視）となっていて検査をより行いやすくなるように設計されています。

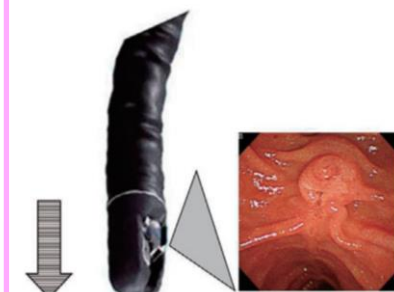


図1 ERCP用スコープの進行方向と内視鏡画像
視野の下端中央がスコープの進行方向である。

口から十二指腸まで内視鏡を挿入し、胆管・膵管の出口である十二指腸乳頭から検査の対象

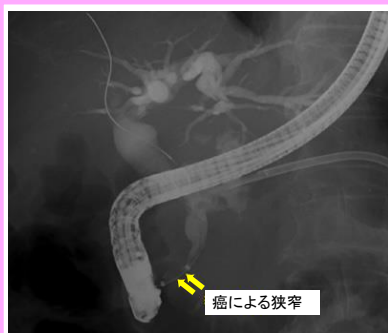
② 検査・治療の実際

となる胆管・膵管の中にカテーテル（細い管）を挿入します。カテーテルから造影剤を注入し、膵管や胆管のX線写真をとることで直接見られない管の中の腫瘍や結石、狭窄などを評価することが出来ます。同時に胆汁や膵液といった消化液を採取したり、病変部から組織や細胞を取って検査することで、癌などの診断も可能です。

検査中は鎮静剤を用いて眠ったような状態で検査を受けて頂きます。検査当日は、食事はできませんが翌日以降に異常がなければお食事を再開します。検査当日から翌日までは感染や急性膵炎の予防のため抗生物質・膵炎治療剤の入った点滴を行うこともあります。

③ 合併症について

胆・膵内視鏡は全国レベルで広く行われておりますが残念ながら合併症が起きてしまうこともあります。ERCP後の合併症として最も多いものが膵炎です。検査後の膵炎は全体の2-7%、に起こるとされています。ほとんどは軽症の膵炎で数日間入院延長で改善しますが、稀に重症化(0.3-0.6%)した場合には強い疼痛や多臓器不全や胆管炎を起こす可能性もあり、他にも十二指腸や胆管の損傷による出血、穿孔（穴があくこと）、腹膜炎などの重篤な合併症を起こし命に関わることもあります。



膵癌による総胆管の狭窄



胆管癌による肝門部胆管の狭窄

当院消化器・肝臓センターでは消化器疾患に対する専門的治療を幅広く実践しております。何かお困りの際はお気軽に当センターへご相談ください。

消化器内科 木村 晋也

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

